

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所に掲示し、朝・夕の申し送りの時、読み上げている。	法人の credo・理念があり「共助の心」を醸し、利用者と家族、職員三者が支え合い、助け合っている。ホーム理念にも9人の利用者の個性を重んじながら職員が10人目の家族となることを掲げ、職員は毎朝・毎夕の申し送り時に確認している。利用者や家族にも利用開始時に理念について話し、毎日を安心して暮らしていただけるよう日々の支援に努めている。また、地域の活動に参加し人々と関わる中で、利用者やホームの存在を知っていただき、利用者がふつうに生活していけるように働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域ケア会議などで、他の施設や事業所と密に連携をとっており、いつでも見学に来て頂けるようにしている。地域のサロンにも毎月職員が参加している。また、「子どもを守る家」の委託を受けている。	区費を納め、地区の清掃活動や防災訓練、冠婚葬祭等に普通の一軒の家として顔を出し、利用者と職員が区の親睦旅行に参加することもあり、地域の人々ともなじみの関係となっている。また、地域のお年寄りが集まる介護予防を目的としたサロンの運営にも職員が関わり地域の活性化に寄与している。町のバックアップもある「オレンジカフェ」や「生き生きサロン」にも職員がサポート役として参加している。春の地区のお祭りには獅子舞や子ども神輿がホームを訪れ披露し、利用者も楽しんでいる。近所の方から野菜などをいただくこともあり、ホーム敷地で実る粟などをお返しすることもある。習字や歌、紙芝居などのボランティアの来訪も随時あり利用者も楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由にホームに訪問して頂けるようにし、利用者と実際に接して頂き、理解や支援方法を知っていただけるよう働きかけている。町のサロンや認知症カフェにも職員が毎月参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、認知症の事や利用者に対する対応などを発表したり意見を求めたりしている。災害対策や身体拘束、個人情報の保護などを議題にして報告や発表している。	偶数月に開催しており、家族代表、区長、民生委員、近所の方、町福祉課職員、地域包括支援センター職員などが出席している。家族には開催の都度お知らせしており、年に1回ほどはどの家族も参加している。その時点のホームの利用状況や前会議以降の行事、ホームの活動などについて報告し、意見や助言を頂いている。特に全国的に話題になっている福祉関係の事例やそれに付随した地域で抱えている課題などについても話し合い情報交換をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の会議に毎月出席して、市町村の情報収集に努めている。また、管理者が小布施町の認知症初期集中支援チームの検討委員の副委員長になり、会議に出席している。	毎月行われている地域包括支援センター主催の地域ケア会議で町や他事業所からの情報を得ており、研修などがあれば積極的に参加している。また、後見人制度を利用している利用者があり、場合によっては手続きなどについて相談するなど、町福祉課や地域包括支援センター職員との連携がとれている。介護認定更新の際には家族に代わり更新申請手続きをすることもあり、町や隣市から調査員がホームを訪れ、ホーム職員が実情を話し協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて学んで、日々のケアに活かすよう努力している。防犯対策のため、現在は玄関に鍵を掛けている。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族の承諾を得ており、書類も残し、毎週カンファレンスで検討している。運営推進会議でも身体拘束を議題にした事がある。	毎年2回、必須研修として拘束に当たる行為や利用者の安全を守るための方法について学習しており、日々の支援の中で実践している。また、身体拘束廃止委員会も管理者と2名の主任で毎月開催している。生命あるいは身体保護のためやむを得ず行う場合は所定の手続きを取り、2週間に1回実施するカンファレンスの中で状況を確認し解除に向けて検討を重ねている。ホームでの暮らしの中で落ち着きが見られない場合には寄り添いつつ見守り、外出したいという様子が見られたら職員が付き添い気分転換している。転倒・転落等からの安全を確保するため、メロディー音のセンサーを複数用意し、万が一に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内(全体会議)研修にて学び、実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については内部研修(全体会議)で学んでいる。現在2人の利用者が成年後見制度を利用している。成年後見人は司法書士。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規利用者受け入れの際、十分な説明や話し合いにより安心して利用できるよう、又、退去についての説明もして納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人ひとりの利用者とのコミュニケーションを取り、率直に気持ちを表現して頂き傾聴に努め、すぐに要求に応じる努力をしている。家族からの意見や要望にもすぐに対応できるよう努めている。また毎月、家族宛にお便りを送り、普段の様子や健康面などを定期的に報告している。	自分の要望等を伝えることができる利用者が半数以上おり、職員もできるだけそれに早く応えるようにしている。家族の来訪は週1回から3ヶ月に1回ほどと家族の諸事情により異なっているが、家族来訪時や9月に行われる敬老会時などに利用者の状況を個々に伝え、意見・要望などをいただき運営に活かしている。また、ホームでは毎月家族宛にホーム便りを作成しており、管理者と看護師のコメントを必ず記入し利用者の様子を知らせ、電話やメールなどでも意見・要望を聞き意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員と良いコミュニケーションを図り、自由に職員の意見が言えたり提案を取り入れ働きやすい環境作りに配慮している。不安なことがないか常に相談に乗っている。半年に一度個別に面接している。	2ヶ月に1回、法人グループの管理者会議があり、その内容も含め、職員全体会議を月1回開き、各職員は通常の業務のほかに係を担当していることから、各係からの業務連絡や研修、個別カンファレンスなども行っている。職員間には先輩・後輩に関わらず話しやすい雰囲気があり、個々に意見や要望を言い合える活気ある職場風土が形成されている。各職員はそれぞれ係として年間計画を立て、評価、修正という流れの中で意見や提案も随時行っている。職員同士の暑気払いや忘年会などもあり、前後半1時間でシフトを調整し全職員が参加できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の要望にできるだけ答えて下さる誠実さがあり、率直に話し合せて頂いている。本社から職員への面談に来て意見を聞いてくれることがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講者は研修内容を回覧し、全職員で共有化を図っている。また、代表者もスタッフ全体の研修の各時期に必要なと思われる研修を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やホームに訪問して頂くなど、同業者と交流し、互いの情報交換をし、ネットワーク内で研修や交流会にも参加している。研修で知り合った事業者の方にも積極的に声をかけ、見学に来て頂いたり見学に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がリラックスして、安心して自分らしく過ごして頂けるよう本人の言葉に傾聴し、動作や表情から心情を察することができるよう、日々努力し、素早く対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と共に何度か訪問して頂いたり、職員が自宅や前の施設を訪問し、お話を伺ったり入居前に本人に会ったりと、できるだけ要望に沿えるよう努め、何でも自由に話せる良い関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネと十分に連絡を取り、情報収集に努め引き続きケアを継続し、まず必要支援を十分に行えるよう努めている。家族に事前に聞き取りをしたり、本人と話をしたりして、支援につながるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が“必要とされる、ことに喜びを感じてお手伝いをしたいと思った時は一緒に作業をして、やりがいを感じて頂く。感謝とねぎらいの言葉を伝え、持ちつ持たれつの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活の様子、体調の変化の際は、電話か面会に来た時など、その都度お知らせして家族の意見を聞き、対応のアドバイスを受ける事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やレクリエーション、歌をうたう際、回想法執行時、馴染みの人や場所を思い起こして懐かしんで頂いている。また、利用者の友人の面会もある。本人の馴染みの場所へ行きたいという強い希望で、東京まで職員と行った利用者もいる。	近所の方の訪問を受けたり、年賀状のやりとりなどを継続している利用者がいる。また、地域ケア会議で管理者が在宅時のケアマネジャーと話し、在宅時の様子からホームでの生活に継続できる点を取り入れている。利用者の希望もあり、昔懐かしい場所に職員とともに車で出掛けた利用者もいる。紙芝居などから馴染みの地元の土地の名前や地域の行事、習わしなどを連想し会話が弾むこともあり、そこからヒントを得て一人ひとりのケアに活かすこともある。入居前、近所であった利用者同士もおり、居室の行き来をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での作業やレクリエーション、その他の交流もなるべく一つのテーブルで、みんなが顔を合わせて楽しめるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やターミナルケアで退去した利用者のご家族から温かい言葉を頂いている。職員は通夜や告別式に出席し、退去後も家族と会い、話す機会を持っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の口にする言葉に耳を傾け、その中から本人の意向を汲み取る努力をしている。また、それを記録に残したり、カンファレンスに活かしたりケアプランに反映している。	半数以上の利用者が言葉で思いを表すことができ、つぶやきなどから些細なことでも職員間で共有し実現できるように取り組んでいる。表出が難しい場合は在宅時の生活歴、できること、好きなことなどから想いを推し量り、本人が必要とされる存在であることを感じていただけるように働きかけ、可能な限りそれに沿えるよう努めている。また、レクリエーションなど、日々、無理のない範囲で利用者の楽しみごとを行うことで意欲につなげたり、退屈しないように支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居者の基本情報を家族から聞き取り、作成し、より本人の希望を叶えられるよう努めている。また、入居前に本人が使っていた物をできるだけ持って来て頂くようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力の把握と確認・心情の変化・通常と違う言動や行動をした場合等、記録に残したり連絡ノートに記入したりして職員全体で把握し、分析して、ふさわしい対応ですぐに応じられるよう努めている。それをカンファレンスやケアプランに反映している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の担当職員がアセスメントしカンファレンスシートを作成し、それをもとに職員全体でカンファレンスを行う。そのカンファレンスや本人と家族の意見をもとにしてケアプランを作成している。ケアプランは記録用紙と一緒にファイルしており、いつでも見られるようにしている。	職員は一人から二人の利用者を担当し、その方のアセスメントとモニタリングを行い、全体会議の前にカンファレンス記録を仕上げ、それを基に全体会議でケア方法を検討している。本人や家族の意向に沿ったケアプランを作成しており、利用者の「役割」や「必要とされていること」を落とし込み、より具体的なプランに繋げている。見直しは長期6ヶ月、短期3ヶ月としており、状況に変化があった場合はその都度見直し、また、看取り期には計画を別に作成している。職員は勤務に入る前にケア記録や連絡ノート、ヒヤリハットなどで状況の変化やケア方法の変更などについて確認し、漏れのない支援に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録とケアプランを一緒にファイルする事で、毎日ケアプランに添った介護を行っているか確認できるようにしている。ケアプランをもとに日々の個人記録に事実の観察項目や言動を記入し、実際に対応した内容と得た情報を記入している。また日々の変化等も記録や連絡ノートに記入して、職員間で共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役所の手続きの代行、病院への付き添い、本人希望による買い物代行、外食やショッピング・お出掛けの付き添い等、ニーズに合わせて対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町のサロンに職員が出席したり、管理者が認知症カフェに出席したりしている。また、管理者が小布施町の認知症初期集中支援チームのメンバーになって活動する事で、ホーム内での認知症ケアに活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の受診については、なるべく家族に対応してもらおうとしているが、対応できない場合が多く、職員が仲だねられ受診の付き添いや主治医との連携を密に取っている。主治医が月1回ホームに往診に来ている。	主治医については本人や家族の意向に沿って決めている。ホーム協力医には看取り期や緊急時など、必要に応じて往診していただけるようになっているので協力医に変更する方もいる。管理者や看護師が定期受診や専門科目の受診に付き添うことが多く、受診状況も管理者または看護師から利用者の家族に正確に伝え、それぞれの利用者に合った対応を話し合っている。ホームには非常勤の看護師1名が勤務しており健康面について随時相談することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が1名職員として勤務している。「看護師との連絡ノート」があり、看護師不在時の利用者の変化や情報・相談・報告のやり取りをしていて、職員はこのノートを毎日確認してから仕事に入る事になっている。必要があれば受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年2名、今年は1名入院した利用者があったが、入院前の様子を伝えたり、ドクターからの説明を家族と一緒に受けたりし、安心して入院できるように努めた。病院との連絡や退院の調整なども密に行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は、それぞれの家族や主治医との相談の上、決定している。その際家族に十分に説明し、家族の希望に添えるよう努め、ケアプランはその都度見直ししている。今まで14名の利用者を看取っている。主治医は24時間対応してくれている。今年も1人ターミナルケアを行った。温かみのある終末期ケアを目指し、実践している。	ホームには重度化した場合や終末期のケアについての方針があり利用開始時に本人や家族に説明している。高齢化してからホームの利用に到るケースが多く、重度化に直面した場合には本人・家族の意向に添い、方針の変更も可能であることをその都度伝えながら話し合いを重ね、主治医と連携のもと、平成21年から14名の方の看取り支援を行った。対象の利用者がいる場合はその利用者の昼・夜の「緊急マニュアル」を作成し、連絡の仕方や対応なども細かく記し、どの職員でも同じ対応ができるようにしている。また、記録も細かくされており毎日訪れる家族にも経過が分かるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、すぐに取り出せ、見れるようになっている。また、全体会議でもターミナルケアや緊急時の対応など学んでいる。実際に、急変や事故発生時に適切に対応できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者立ち合いで職員による避難訓練を、昨年は2回行い、内1回は消防署の職員立ち合いのもと行った。毎年、地区の防災訓練にも参加しており、区長さんとの協力体制を築いている。	年3回、訓練を実施しており、うち1回は夜間想定で行い、また、1回は昼間、消防署員も参加し指導を受け、利用者も非常階段を使い避難し、一連の通報・消火・避難訓練が行なわれている。更に、毎年6月に地区の防災訓練が行われ、ホームでも水害を想定した訓練を実施している。非常持ち出し用のリュックが二つ玄関に用意され、防災チェック表で点検も行い、消防設備も完備している。日頃から近所の方や区長にも協力を依頼しており訓練時には利用者の一時避難の見守りもお願いしている。備蓄品も充分準備されており、万が一に備えホームの畑でジャガイモなども栽培している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに優しく豊かな接し方をしている。敬語を織り交ぜて会話して、尊敬の気持ちを忘れずに対応している。必要があれば居室で一对一で話を聞く事もある。	常に人生の先輩とし尊敬の念をもって利用者に接しており、特に言葉づかいは幼児語は絶対使用せず、必ず敬語を使ことを職員間で確認している。職員同士の会話でも特に排泄については「大」は「K」、「小」は「ハルンケア」と隠語を使用し、利用者の気持ちに配慮している。日常動作の声掛けは臨機応変で、一人ひとり、丁寧に依頼し、言葉のやり取りをしている。排泄や入浴の異性介助についても無理強いすることなく、利用者との信頼関係が自然に築かれていく中で利用者の意向に合わせて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を否定せず最後まで傾聴している。本人が恥ずかしくて言いにくい事も日頃から良いコミュニケーションを取り、言いやすい関係作りをしている。その日の洋服を自分で選んで1日に何回か着替える利用者もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはおおよそ決まっているが、一人ひとりの体調、希望に沿い、食事時間、メニュー、1日の行動スケジュールを柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夜のパジャマと日中の洋服の区別をしっかりとつけて、身だしなみに気配りしている。また、体調不良などでやむを得ず日中パジャマでいる場合は家族に承諾を得ている。自分で服を選び1日に何回か着替える利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が色々な役割を持ち食事の準備や配膳、盛り付け、食器の片付けなどで参加している。参加できない方も料理の話をしたり、食事の準備を見たりして楽しみにしている。麺類好きの利用者のために、時々主食を麺類に変えている。	全介助の方が半数弱おり、利用者の食事時間を二部制とし職員の手と目が十分行き届くように工夫している。食材については調理済み冷蔵の主菜や副菜を湯煎で戻すようにしており、常食やミキサーなど一人ひとりに合わせた形で提供されている。配達食材であるが行事に合わせて、季節感のある料理が食卓に上っている。誕生日には職員手作りのケーキでお祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在は株式会社タカ商の配食サービスを昼食と夕食のみ利用している。栄養を取り入れられない方については、食事量、水分量をチェックし、摂取しやすいように刻み食、ミキサー食、好きな食品など提供し、補うよう調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、協力歯科医の往診があり歯科衛生士からの口腔ケア指導を受けている。適したケアができるよう、スタッフ間で情報を共有している。義歯は随時消毒をしている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄できるよう定期的にトイレ誘導し、ゆとりある仕方です尿を待つよう支援している。排泄状態に合わせた、パットの当て方や方法などを常に検討している。	自らの意思でトイレへ行ける方が四分の一弱ほどおり、できるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。利用者の状況に合わせ布パンツ、リハビリパンツ、パット、オムツなどを使用している。居室にはトイレがあるが、夜間のみ安心のためベッド近くにポータブルトイレを置く方もいる。利用者一人ひとりの排泄用品の使用一覧を作り統一した対応を取っており、排泄状況も時系列的に一週間単位で記し体調管理の目安としている。トイレでの介助記録、リハビリパンツの使用状況なども連絡ノートに記入し全職員が共有することで快適な支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の排泄パターンに合わせ水分の調整、下剤の使用調整や、乳製品を毎日飲むようにしている。また、運動不足解消に軽体操、風船バレーなど実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自定期的に入浴し、汚染時や皮膚のトラブルがある方は、その都度入浴対応して配慮している。必ず週2~3回は入浴を行っている。入浴以外では、清拭も随時行っている。	利用者の希望に沿って週2回は必ず入浴できるようにし、入浴日以外は足湯なども行っている。事故防止のための見守りを含め、全員が何らかの介助を必要としており、職員二人で介助をする方もいる。浴室用の車イスチェアなどを使用し、安全にゆったりと入浴できるように努めている。季節ごとにリンゴ、ゆず、薔薇の花などをお風呂に浮かべ、楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や、スタッフが観察して休息が必要と思われる時は、ホールの居間にベッドが設置してあり、いつでも休めるようになっていく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬情報のみを入れたファイルがあり、職員全員が閲覧できるようになっている。症状の変化があった場合、看護師がドクターと相談の上、処方してもらっている。薬が変わった場合、連絡ノートに記入して職員全体に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりがいや自分の居場所を見つける事で生きがいを感じてもらうために、家事の手伝いをお願いしている。秋には栗拾いをしたり、各自できる範囲で日々のレクリエーションを行ったり、外出支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員と車で外出したり、散歩に出掛けたり外食も楽しんでいる。また、出掛けた時の写真は家族に見て頂いている。時々、家族と一緒に外食に出掛ける利用者もいる。	ホーム内で常時車イスを使用している方もおり、外出の際に車イスを使う方が多く、無理のない距離でホーム周辺を散歩している。ホーム周辺には名所・旧跡など見どころも多く、利用者の希望、身体機能や体調に合わせ、季節毎に花見、バラの見学、紅葉狩りなどに少人数で出かけている。法人のホームページにもその時のスナップ写真が掲載されており、晴れやかな表情が見られているという。また、回転寿司やハイウェイオアシスのレストラン、町内のカフェなどへ外食に出掛けている。	

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かったおこづかいは職員が管理している。通常以外の買い物は、家族の承諾を得ている。おこづかいの明細や領収書は月1回各家族に送っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいと希望する利用者には職員が電話し、本人と代わって家族と会話してもらっている。家族や親戚からの手紙を本人に渡すか、読み上げるかしている。年賀状は一人ひとりが一言書いて家族に出している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンやファンヒーターも完備しており、適度な温度・湿度管理をしている。リビングも落ち着いた感じになっており、壁には季節を感じさせる貼り絵や写真を飾っている。	玄関を入ると中扉がありそれを開くと食堂と居間が続き、居間の部分も吹き抜けになっていて開放感がある。食堂と居間は床暖でエアコンもあり、日中、ここで過ごす利用者が多い。食堂に並びキッチンもあり職員と利用者が和やかに話をしながら食事づくりに動いている。畳スペースにはソファやベットの置かれ、利用者が休養を取ることができる。ホームではレクリエーションに力を入れており、貼り絵、習字などの作品も壁に貼られており、町内の図書館で借りてきたCDなども整然と納められていた。玄関横には事務室があり来訪する家族にも声をかけやすく、2階にある多目的室も広く、会議や交流スペースとして利用されている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを囲み、楽しく会話したりテレビを見たり、レクリエーションを楽しめるように配慮している。また、休みたい人はホールのベッドで横になって休むことができるようになっている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレ、洗面所が設置されている。また、入居前に使っていたこたつ・カーペット・タンス・コップなどを多く持ち込んで頂いている。	居室の壁面には職員手作りの誕生日メッセージカードや外出時の写真、習字の作品、好みの格言の記されたカレンダーなどがコンパクトにまとめられ張り出されている。居室も床暖であるが、エアコン、トイレ、押入れが備え付けられ整理整頓も行き届き、職員の細やかな気配りも感じられ、利用者は快適に過ごすことができている。各居室にはベランダがあり、また、掃き出し窓であるので外光も入り明るい。使い慣れたタンスなどが持ち込まれ、家族等の来訪時に歓談できるようにソファなども置かれている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所用品の片付けができるよう、引き出しにネームを付けている。また、洗濯物をたたんでもらったり、食器を洗ってもらったり、毎日の仕事に安全に配慮しながらできるかぎり携わって頂いている。	